

第354号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086) 420-1311



いつの時代も



カット：本多紘子

ジトジトとした日本の夏がやって来ました。お寺の周りは農家が多く、6月中旬から田に水が入り、綺麗に田植えがなされています。毎晩、水田のカエルたちが夜通し大合唱して、やかましく感じるときもありませんが、カエルたちも恋の季節だから仕方ないよね。梅雨が明ければ猛暑の夏、皆様がいかがお過ごしでしょうか。

今年の7月上旬は西日本豪雨で各地が被災し、住宅が土砂で破壊されたり、川の氾濫で住宅が浸水し、多くの人が亡くなったりして悲惨でしたが、今年の夏は地震や豪雨のないことを願うばかりです。

日本の国は昭和20年の敗戦後の廃墟の中から、「四苦八苦」しながら食べる物や着る物の困らない豊かな国を目指して、経済復興に邁進してきました。日本に大工業地帯をつくり、農村の多くの若者を労働者として働かせ、都市へ人口の大移動の流れをつくっています。しかし、工業地帯から発生する煤煙や廃液で、山や川や海が汚れ、木が枯れ、魚も貝も死んで、近隣の多くの人が公害病で苦しみます。公害に反対する市民運動が起こっても、大企業は利益中心なので責任を認めなかったが、やがて政府も重い腰をあげ、環境汚染を厳しく制限しました。そのお陰で川や海に魚や貝が戻ってきたのは嬉しいですね。

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

日本の国が30数年前の昭和時代に世界第二位の経済大国だったときも、多くの人が悩みや苦しみを抱えて生きていました。また、バブル経済がはじけて平成の時代になっても、就職氷河期があり、若者たちが就職出来ずに、現在も家庭に閉じこもったまま50代を迎える人が多く、80代の年金生活の親御様たちの悩み苦しみとなっています。

5月28日午前7時40分ころ川崎市多摩区の路上で、通学バスを待っていた登校中のカリタス小の小学生たちが、51歳で引きこもりがちであった岩崎隆一容疑者に刃物で次々と襲われました。小学六年の女儿と別の女儿の父親であった外務省職員も首などを刺され死亡、ほかに児童16人と40代女性が重軽傷を負いました。岩崎容疑者は襲撃後まもなく自らの首を切つて自殺しています。この事件をきっかけに、6月1日に引きこもりがちであった44歳の息子を、元農林水産次官の76歳の父親が包丁で刺殺しました。自宅の近くに小学校があり、同じように息子が襲撃事件を起こすのではと心配したからです。

いつの時代も悩みと苦しみは尽きないものですね。仏教を開かれた三千年前のインドのお釈迦様も「人生は苦なり」と説かれました。自分の思い通りに生きれないので「四苦八苦」とも言います。生きることに悩み、老いることを受け入れられず、病に不安を感じ、死を怖れて苦しむことが「四苦」です。「八苦」とは生・老・病・死の四苦に、もう四つ足して「八苦」ですね。愛しい者と別れ離れる愛別離苦、怨み憎しむものと出会う怨憎会苦、求めたものが得られない求不得苦、人間の心身を構成する器官が盛んに苦しむ五蘊盛苦の「四苦」を足して「四苦八苦」と呼んでいるのです。

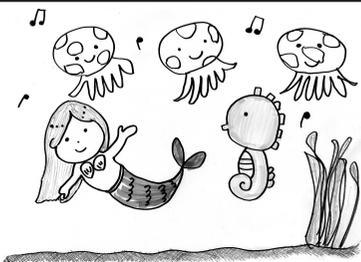
貧富の格差が二極化し始めた現代の日本、富める者も貧しき者もみんな自己中心でイライラとし、支え合い助け合う地域社会が崩れているのは寂しいことです。高齢者を支える若者が減っているのも悩みの種ですね。人間として生まれたことを喜び、自分らしく死んで行くためにも、仏教を深く真剣に学びたいものです。合掌 (奥原 曇龍)

『人生に悩み苦しむ当たり前 一つの時代も微笑みで生きよう』 どんりゆう

ともしび説法

日時・七月十一日「木曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
八月二十日「火曜日」 午前十時から昼十二時頃まで。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



カット：奥原 綾



お釈迦様ものがたり

三十五歳のお釈迦様は、かつて一緒に修行した旧友の五人の比丘たちをベナレス郊外の鹿野苑に尋ね、最初の説法をします。この説法のことを初転法輪と呼びます。

最初の説法が終わったとき、「ああ コンダンニヤ(憍陳如)はさとった。ああ コンダンニヤはさとった」とお釈迦様はたいへん喜ばれました。自らのさとった内容を他人にわかってもらえるかどうかということが大きな問題だったからです。

お釈迦様の最初の説法の内容は、人間の歩むべき正しい道である「中道」(両極端を離れた道)と人生の真相とさとりの道を明らかにした「四諦八正道」の教えです。

四諦とは「四つの真理」という意味です。「苦諦」「集諦」「滅諦」「道諦」で苦集滅道の四つの真理のことをいいます。「諦」は諦めるとも読めますが、明らかに真理を見るところという意味で使われています。

第一の「苦諦」とは、人生の真相は苦なりという真理を明かしたものです。人生とは具体的に四苦八苦だと説かれました。四苦とは生老病死の生れる苦しみ・老いる苦しみ・病む苦しみ・死ぬ苦しみを言います。八苦とは生老病死の四苦に、愛別離苦(愛するものと別れ離れる苦しみ)・怨憎会苦(怨み憎む者と出会う苦しみ)・求不得苦(求めても得られない苦しみ)・五蘊盛苦(心身から生じる苦しみ)の四つを加えて、八苦です。

第二の「集諦」とは、苦しみを招き集める原因は、自らの煩惱であるという真理です。苦しみの原因は外にあるのではなく、自らの内にある煩惱だと教えます。いつまでも若くありたい、健康でいたい、いつまでも生きたいという願いが、老病死を苦にするのです。第三の「滅諦」とは、苦の原因である煩惱を滅した境地が涅槃(さとりの世界)であるという真理が説かれます。合掌(奥原曇龍)

ともしびがゆらゆら揺れる夏祭り 夜店楽しむ浴衣の子たち 田辺多恵子



6月12日 ともしび説法の休憩中の軽食

ともしび法話

梅雨が明ければ猛暑の夏。海や山へと夏休みに遊びに行きたい子供たちですが、親御様は大変ですね。皆様お元気ですか。心光寺も七月の中旬からお盆のお参りを始めます。今年は8月13日・14日の2日間午前中に本堂で合同のお盆勤めもします。心光寺坊主(ぼうもり) 奥原 博子

今年は主人の初盆ですが、心光寺様にはお世話になります。ともしび説法の参加やともしび郵送のお手伝いをさせて頂きながら、皆様と親しく感謝しています。倉敷市藤戸天城 縄田 君子

昨年は真備町で豪雨により、住宅が水没して住めなくなり本当に辛かったです。真備町で再建をあきらめ、団地に住んでいますが、説法を聞くと元気がでてきます。倉敷市中庄 山下 稔

心光寺のお寺で「楽々体操」やともしび説法のお手伝いをさせて頂きながら、お寺の仲間と料理や趣味の話などで楽しんでいきます。皆様、お寺でお会いしましょう。倉敷市藤戸天城 福原 浩子

ともしび説法

日時・七月十一日「木曜日」 午後一時から午後四時頃まで
八月二十日「火曜日」 午前十時から昼十二時頃まで
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定
九月 五日(木)・午前十時から午後十二時・早高の本堂。
十月 十日(木)・午後一時から午後四時頃・早高の本堂。
十一月 三日(日)・午前十時半から午後四時・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。
ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)

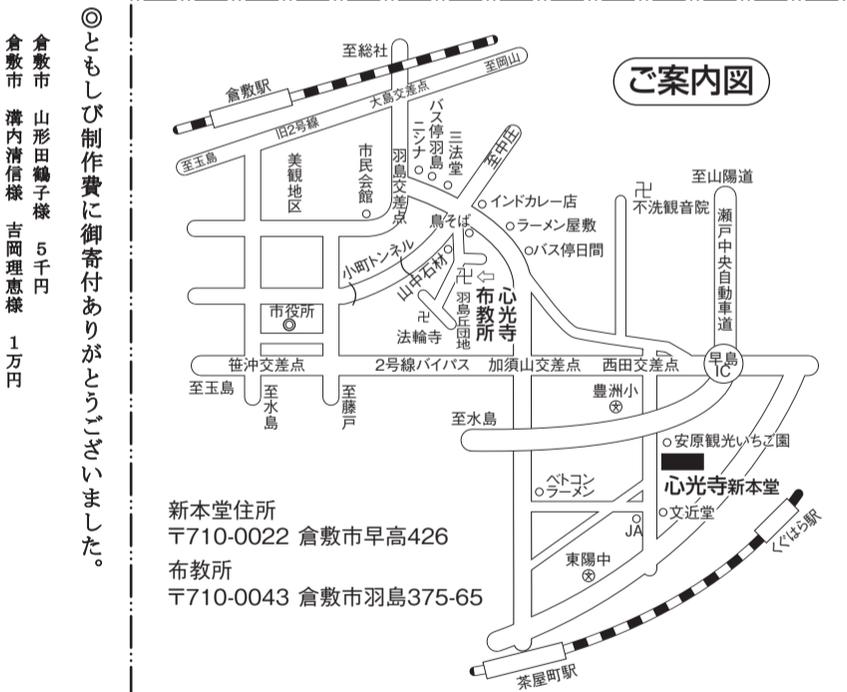


七月の詩

七月が来たよ
悲しみの一年前の豪雨災害
キリキリと 今でも胸が痛む
苦悩の中で復興をあきらめる人
懸命に立ち向かう人
ここから 今から それぞれに
新しい 自分の人生を生きる



カット:吉岡美枝



◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。
倉敷市 山形田鶴子様 5千円
倉敷市 溝内清信様 吉岡理恵様 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「354号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には、茶屋町駅西口に12時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡を下さい。合掌 心光寺 総代長 三村健